Panasonic

小電力型 ワイヤレスコール

熱線センサー送信器

（屋側用）

（ブラウン）品番 ECE1821AP
（ベージュ）品番 ECE1821FP

取扱説明書

●このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
ご使用前に「安全上のご注意」（1ページ）を必ずお読みください。
●この取扱説明書は大切に保管してください。
●万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

施工説明付き

ご使用前に

●この商品は、受信器と組み合わせて使用することにより、各送信器からの呼び出しを受信器側で報知する商品です。
なお、この商品は電波法で認められた「特定小電力の無線局（テレメータ用およびテレコントロール用）」です。

●この商品は報知・連絡用であり生命救済、犯罪防止を目的にした機器ではありません。

付属品

●リチウム電池（CR123A）…1コ
●取付用なべタッピンネジ（4×20）……2本
●両面テープ……2枚
●取扱説明書（本紙）……1冊

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を説明しています。

⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の記号で説明しています。

❗	実行しなければならない内容です。

⚠注意

❗ 必ず守る	**リチウム電池は極性に注意して、表示通りに入れる。** 極性を間違えると、リチウム電池の破裂や液もれの原因となります。
	確実に固定する。 固定に不備があると、落下によるけがの原因となります。

おことわり

●送信器は、総務省の技術基準に適合しています。
商品に貼り付けられている表示(㊣マーク)は、その証明マークです。表示マークの貼り付けられている商品は総務大臣の許可無しに改造して使用することはできません。

改造すると法律により罰せられることがあります。

もくじ

■安全上のご注意 ——— 1
■ご 注 意 ——— 3〜5
■取付上のご注意 ——— 6
■熱線センサーについてのご注意 ——7〜9
■各部のなまえとはたらき ——— 10
■お使いになる前に ——— 11〜15
●周波数チャンネルを確認する ……11
●送信器にリチウム電池を入れる ……12
●受信器に送信器を登録する ……12〜15
追加登録または
報知音(用件ランプ)を変更する場合は ……15
登録を消去するには ……15
■取付方法 ——— 16〜17
■検知範囲について ——— 18〜21
■動作確認 ——— 22
■使い方 ——— 23〜26
■故障かな？と思われたら ——— 27〜28
■仕　様 ——— 29

ご注意

■この商品は不審者を検知して音で警告し屋内に知らせる機能を持っていますが、侵入・盗難を阻止する商品ではありません。発生した損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

■送信器は軒下などの屋側(家の外側壁面)で使用してください。とくに直接雨のかからない場所、および太陽光が直接当たらない場所への取り付けをおすすめします。(6〜9ページ参照)

■受信器と送信器の電波の到達距離は障害物のない場所での水平見通し距離約40mです。

(電波が届きにくい場合は中継器(別売)をご使用になり、動作を確認してください。)

■下記のような使用環境では、電波(ノイズ)を受けたり電波の到達距離が短くなります。このような場合は、動作しないことがありますので注意してください。

(受信器のアンテナはまっすぐ立てて使用してください。)

- ●機器間に金属や鉄筋コンクリートなどの電波を通しにくい障壁がある。
- ●機器間にある壁面内の断熱材にアルミ箔を貼り付けたグラスウールを使用している。
- ●機器の周辺が金属物で囲まれている。
  (スチールキャビネットの間、カラオケボックスなど)
- ●金属物の壁面に機器を取り付けている。
- ●操作する人の体の向きで電波を遮っている。
- ●電子レンジやパソコンなどの家電商品やOA機器が機器の2m以内にある。
- ●機器の近くで、直流電圧で駆動するベルやモーターなどの機器が動作している。
- ●機器の近くで、携帯電話やPHS電話を使用している。
- ●機器の近く(10m以内)で、マイクロ波治療器を使用している。
- ●近くに、テレビ・ラジオの送信所近辺の強電界地域または各種無線局がある。

■設置場所ではあらかじめ動作確認を行ってください。設置後、使用環境(電波環境)が変わることがありますので、定期的に動作確認を行ってください。

■送信電波が医用電気機器に与える影響はきわめて少ないものですが、安全管理のため送信器は医用電気機器から20cm以上離して使用してください。

■この商品は、強風や周囲の環境による温度上昇や障害物により頻繁に動作し、電池寿命が短くなる場合があります。設置場所には十分注意してください。また、雨の降り始めにカバーに水滴が付着したり、地面が水でぬれたりして、温度変化を検知すると、動作する場合があります。

■送信器は防雨構造になっていますが、ホースなどで故意に水をかけないでください。

■送信器に雪がつもるような場所でのご使用は、誤動作したり動作しない場合があります。送信器に雪がつもらないように配慮してください。

■送信器に衝撃を与えないでください。落としたり、窓を強く開閉すると、誤動作や破損の原因となります。

■送信器は1度検知して送信すると約10秒間経過しないと次の検知動作はしません。

■同じ周波数チャンネルであれば1台の送信器で受信器は何台でも同時に鳴らすことができます。

■受信器と送信器は50cm以上離してください。

■2台以上の送信器から同時に操作すると、受信器は動作しないことがありますが、故障ではありません。

■組み合わせ可能な受信器・中継器

●下記の商品と組み合わせて使用してください。
(小電力型ワイヤレスシリーズ(ECE品番)の受信器および中継器)
●ご使用の際にはその商品に付属の説明書を参照してください。

(2008年7月現在)

品　名	品　番
小電力型ワイヤレスコール卓上受信器(受信4表示付)	ECE1601P
小電力型ワイヤレスコール携帯受信器	ECE1611K (セット品番:ECE161KP) ECE1613
小電力型ワイヤレスサービスコール受信器(シンプルタイプ)	ECE3152
小電力型ワイヤレスサービスコール受信器(マルチタイプ)	ECE3102K
小電力型ワイヤレス接点出力受信器(1出力用)	ECE5101
小電力型ワイヤレス接点出力受信器(4出力用)	ECE5104
小電力型ワイヤレス中継器	ECE1680

注 **●微弱型のワイヤレス機器(ECA品番)およびセキュリティシステム用の小電力型のワイヤレス機器(ECD品番)と組み合わせての使用はできません。**

●中継器は1システムに2台まで使用できます。
ただし、台数設定が必要です。
中継器に付属の説明書にしたがって設定してください。

お手入れ

●ふだんのおそうじは…
やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは…
中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
噴霧式の洗剤は使わないでください。

注 **ベンジンなどは引火性があるため、使用しないでください。**

取付上のご注意

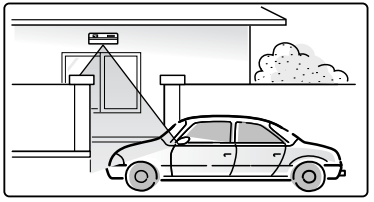
■人などが検知範囲を横切るように取り付けてください。

(18ページ参照)

■検知範囲を正しく設定してください。

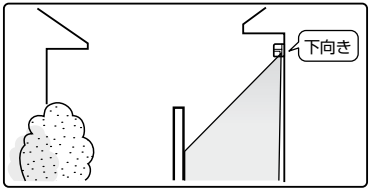
(検知範囲は18~21ページ参照)

●検知範囲の延長線上に動くものを置かないでください。
検知する場合があります。
(例:植木・自動車・洗濯物・通行人・犬小屋など)
●検知範囲が敷地外に出ないように設定してください。
検知する場合があります。



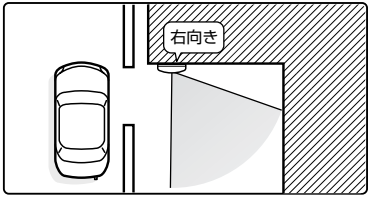
取付例 ❶

隣家に検知範囲が出ないように垂直方向を調整してください。



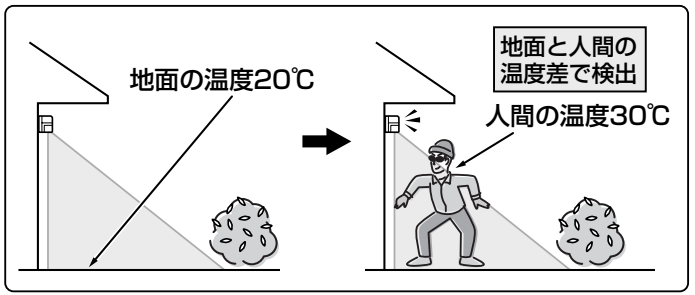
取付例 ❷

道路に検知範囲が出ないように水平方向を調整してください。



熱線センサーについてのご注意

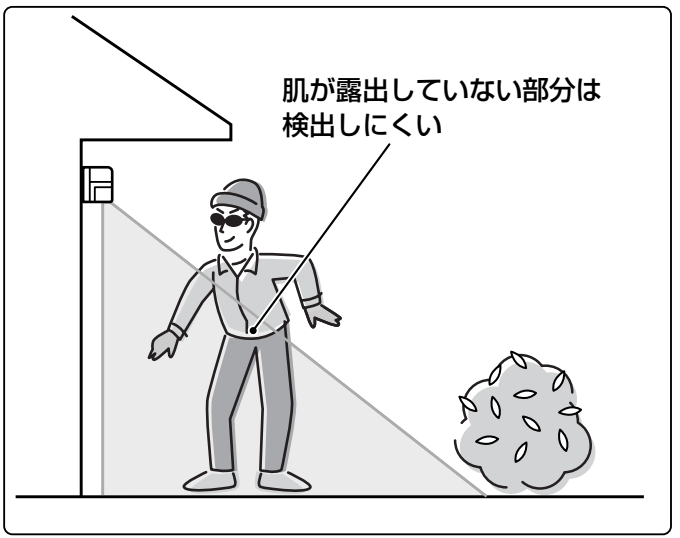
■熱線センサーは、物体(地面や壁など)の温度と人の温度の「温度差」を検出します。



- ●熱線センサー送信器は検知範囲内の温度変化分(3℃以上)を検出する方式の商品です。何らかの要因で検知範囲内の温度が急に変わったときは動作をしたり、人が通っても温度変化として検出できないときは検知動作しない場合があります。
- ●検知範囲内であっても、人が静止している場合は、検知動作しません。
- ●検知範囲は、背景と検知対象物の温度差および、移動スピードにより、検知距離以上でも検知する場合があります。
- ●熱線センサー表面やカバー表面に汚れが付着した場合や、検知対象物の動作などにより、検知性能が低下することがあります。
- ●熱線センサー表面やカバー表面が凍結した場合は、動作しないことがあります。
- ●熱線センサーはガラスごしには検知しません。
- ●感度切替スイッチを「高」に設定すると、誤検知しやすくなります。

■次のような環境では人を検出しない場合があります。

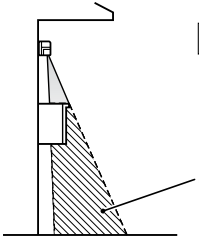
- ●夏場など、気温が体温に近づいているとき。
- ●冬場など防寒着や手袋などで身体を覆っているとき。
- ●傘などで身体を覆っているとき。
- ●検知範囲が真下を向いているとき。



■次のような場所には取り付けないでください。
（検出しなかったり、誤動作の原因となります。）

人の動きを検出しない場所

●検知範囲内に障害物のある場所



家の外
ポストや牛乳配達ボックスなどの突起物がある場合

この範囲は検出できません。

誤動作しやすい場所（頻繁に動作すると、電池寿命が短くなります。）

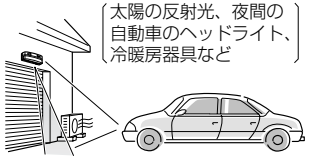
●検知範囲内に動くものがある場所
●振動や衝撃の影響を受ける場所

植木、洗濯物、カーテン、猫、虫が集まる外灯の近くなど

●検知範囲内で急激な温度変化がある場所

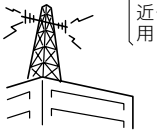
水、湯気、油、すきま風、車の排気ガスなど

●直射光・反射光の当たる場所
●室外機の風が直接当たる場所



太陽の反射光、夜間の自動車のヘッドライト、冷暖房器具など

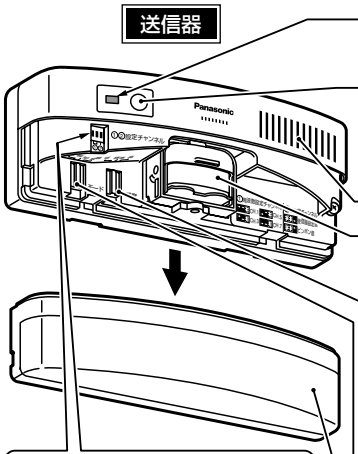
●電気的雑音の発生源の近く



放送局、各種無線局、近くで携帯電話を使用している場合など

各部のなまえとはたらき

小電力型ワイヤレスコール　熱線センサー送信器（屋側用）
（ブラウン）（ECE1821AP）/（ベージュ）（ECE1821FP）



動作表示灯
●検知したとき赤色点滅します。

音停止ボタン
●警報音および報知音鳴動時に約3秒間押すと、音が止まります。

ブザー

熱線センサー

注 一度検知すると、約10秒間は検知しません。

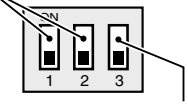
感度切替スイッチ（低・標準・高）
●熱線センサーの検知感度を3段階（低・標準・高）で切り替えます。
（出荷時：「標準」側）

モード切替スイッチ（音切り・報知・警戒）
●使用状態を選択します。
（出荷時：「警戒」側）
（23ページ参照）

注 送信器を検知しないようにすることはできません。

カバー
●はずし方は12ページ「送信器にリチウム電池を入れる」参照

周波数設定スイッチ
●周波数を設定するときに使用します。（出荷時：CH.1）



音色設定スイッチ
●卓上受信器と組み合わせる場合に、音色（報知音）を切り替えるときに使用します。
（13ページ参照）

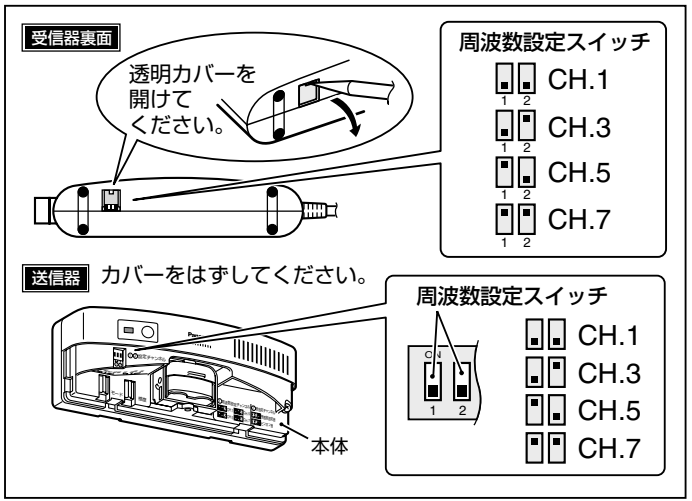
お使いになる前に

1 周波数チャンネルを確認する
2 送信器にリチウム電池を入れる
3 受信器に送信器を登録する が必要です。

注 この説明書は卓上受信器(ECE1601P)(別売)との組み合わせについて書いてあります。
ほかの受信器をお使いの場合は、受信器に付属の説明書をご確認ください。

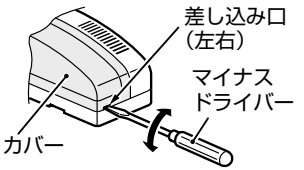
1 周波数チャンネルを確認する

●受信器と使用するすべての送信器の周波数チャンネルが同じであることを確認してください。違う周波数チャンネルでは動作しません。(出荷時はCH.1に設定されています。)

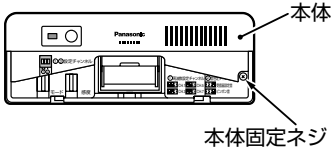


2 送信器にリチウム電池を入れる

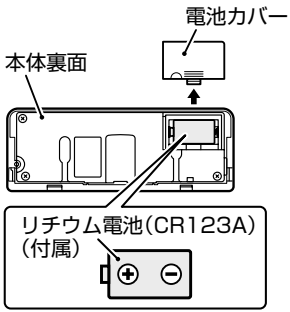
❶ カバーをはずす。



❷ 本体固定ネジをゆるめる。



❸ リチウム電池1コを入れる。



① 本体裏面の電池カバーを開ける。
② 極性を間違えないようにリチウム電池を入れて、電池カバーを閉める。

注 リチウム電池を入れてから約1分後に正常動作となります。

3 受信器に送信器を登録する

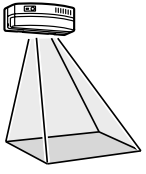
●登録は受信器の近くで行ってください。
●受信器1台に送信器は最大30台まで登録できます。
●電源プラグを抜いても登録内容は消えません。
消去する場合は15ページの「登録を消去するには」を参照してください。

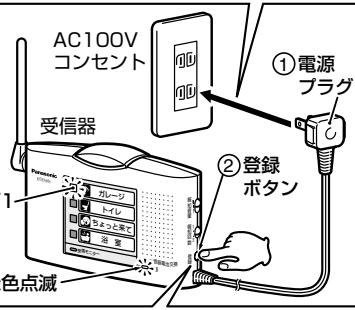
送信器の登録方法

① 差し込む

●電源表示灯が緑色点滅、用件ランプ1が赤色点滅する。 ← 登録モード

例）熱線センサー送信器を用件ランプ1に登録する場合





② 押す（用件ランプの選択）

●登録したい場所の用件ランプを赤色点滅させる。

登録ボタンを押す回数	用件ランプ
ー（登録モード時）	1が点滅
1回押すと	2が点滅
2回押すと	3が点滅
3回押すと	4が点滅

押すごとに上記の表を繰り返します。

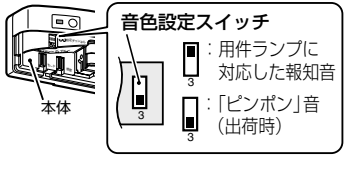
注 1台でも送信器を登録している場合は、登録ボタンを4回押すと用件ランプは消灯します。

押すごとに左記の表と消灯を繰り返します。
ただし、消灯から用件ランプ1に戻すときには、約1秒間押し続けてください。

こんな使い方もできます

●受信器からの報知音を用件ランプに対応した音色に変えることもできます。

（カバーをはずした図）



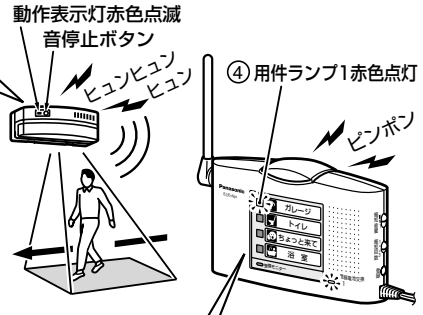
●登録ボタンを押して登録したい報知音の用件ランプを赤色点滅させてください。

用件ランプ	報知音
1に登録すると	「プルプル」音
2に登録すると	「ブー」音
3に登録すると	「ピピッ」音
4に登録すると	「ポロロン」音

③ 動作させる

●送信器を動作させる。

注
●音を止めるには、音停止ボタンを約3秒間押してください。（24ページ参照）
●一度検知すると、約10秒間は検知しません。



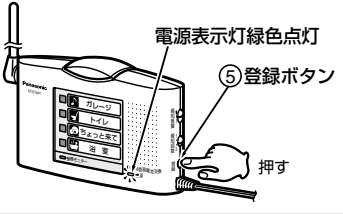
④ 登録される

●用件ランプ1が赤色点灯し、報知音が鳴る。

注
●報知音が止まると用件ランプ1が赤色点滅し、引き続き、登録できます。 送信器を複数台登録する場合は②、③の操作を繰り返してください。
●31台目を登録しようとすると、受信器から警告音「ピッピッピッ」音が鳴り、登録できません。
●登録時は着信ランプは点滅しません。

⑤ 登録を完了する

●登録ボタンを4回押して用件ランプを消灯させる。
●電源表示灯が緑色点灯する。



注
●④の登録をしてから、約1分間経過すると自動的に 登録完了 します。
●③の操作で音を止めた場合は、音停止ボタンを約1秒間押してください。押さないと、検知しても音は鳴りません。

追加登録または報知音(用件ランプ)を変更する場合は

注 受信器からの報知音を変更する場合は、音色設定スイッチで「用件ランプに対応した報知音」を選択する必要があります。
（13ページの「こんな使い方もできます」を参照してください。）

●登録ボタンを約1秒間押し続けて

登録モード（電源表示灯：緑色点滅 / 用件ランプ：赤色点滅）にして、13ページの

②以降の操作を行ってください。
（変更する場合は、変更前の登録を消去する必要はありません。）

登録を消去するには

注 送信器は1台ずつ個別に登録を消去することはできません。
（全消去のみです。）

❶ 受信器の電源プラグを抜く。
❷ 受信器の登録ボタンを押しながら電源プラグを差し込み、受信器から「ピー」音が鳴るまで（約3秒間）押し続ける。
（登録が消去されます。）

注 全消去されると受信器は 登録モード になります。

取付方法

●受信器・送信器の使用場所を変更したときは動作確認をしてください。

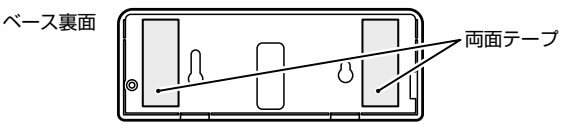
❶ カバーとベースをはずし、リチウム電池を本体に入れる
●12ページの「送信器にリチウム電池を入れる」を参照してください。

❷ 登録をする
●12～15ページの「受信器に送信器を登録する」を参照してください。

❸ ベースを取り付ける

アルミサッシなどに取り付ける場合

●両面テープ2ヵ所で固定してください。

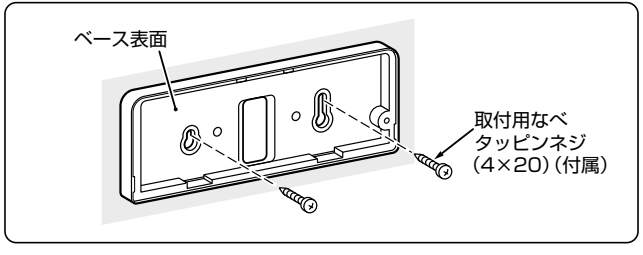


注 ●貼付位置の汚れを落とし、ぬれている場合は乾かしてから貼り付けてください。また冬期はストーブなどで粘着面を温めてから貼り付けてください。汚れやぬれていたり、粘着面の温度が低過ぎるなどの原因により、粘着力が弱くなり、はずれるおそれがあります。また、凹凸のある壁面に取り付けると、両面テープの接着面が小さくなりはずれるおそれがあります。
●粘着力が強いため、一度貼り付けると取りはずすことが困難なので、あらかじめ貼付位置で動作確認をしてください。
●貼り付け後、はずれないように強く押し付けて、取付状態を確認してください。
●両面テープは最初は粘着力が弱い場合がありますが、一昼夜程度で十分な粘着力になります。
（商品に強い衝撃を与えないようにしてください。）

➡ つづく

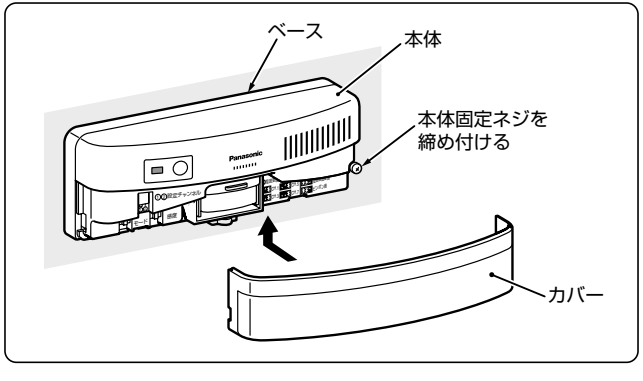
木枠などに取り付ける場合

●付属の取付用なべタッピンネジ（4×20）で固定してください。
（両面テープでも取付可能です。）
●石材またはコンクリート材に取り付ける場合は、市販のPYプラグを使用してください。（販売店に相談してください。）



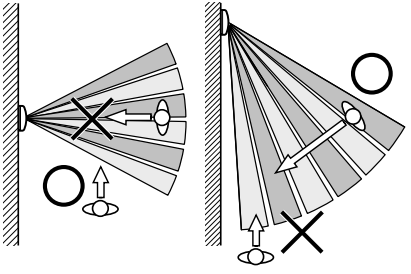
❹ 本体とカバーを取り付ける

注 カバーを取り付ける前に熱線センサーを動かして検知範囲を調整してください。（18〜21ページ参照）



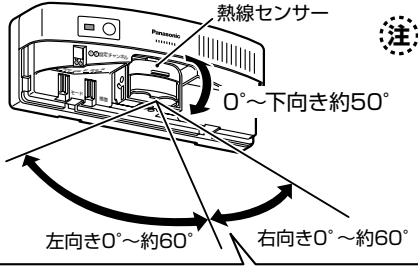
検知範囲について

人が検知範囲を横切るように取り付けてください。図のように本体に向かって歩く向きに設置すると検知しにくくなります。



角度調整方法

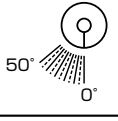
●熱線センサーを動かして検知角度を調整できます。



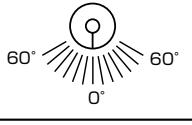
注 角度調整後は、必ずカバーを取り付けて動作確認を行ってください。

目盛りは熱線センサー本体に書いてあります。
（数値は表示していません。）

▶側面（左右）目盛り：垂直方向
●約5°きざみで11段階の調整が可能です。



▶底面目盛り：水平方向
●約10°きざみで13段階の調整が可能です。

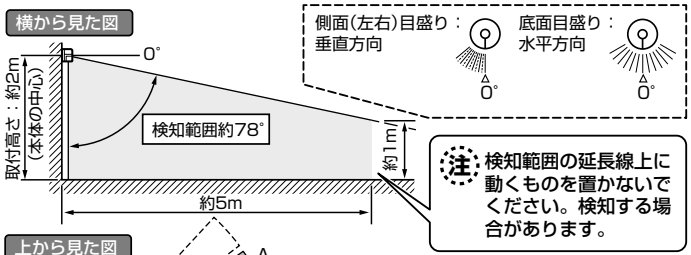


検 知 範 囲

本体から約5mの範囲を検知したい場合

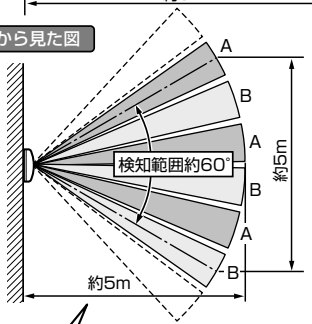
■垂直方向：0˚(最大上向き)、水平方向：正面0˚に設定します。

横から見た図



注 検知範囲の延長線上に動くものを置かないでください。検知する場合があります。

上から見た図

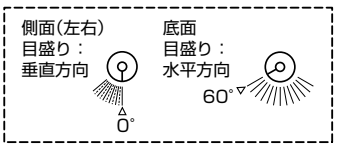


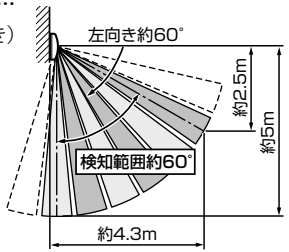
感度切替スイッチ：「標準」側の場合

この場合、A、B二つのエリアを通過したときに検知します。
一つのエリアに入っただけでは検知しません。

例えば、左側だけを検知したいときには…

水平方向だけを左向き約60˚(最大左向き)に調整すると、検知範囲は右記のようになります。

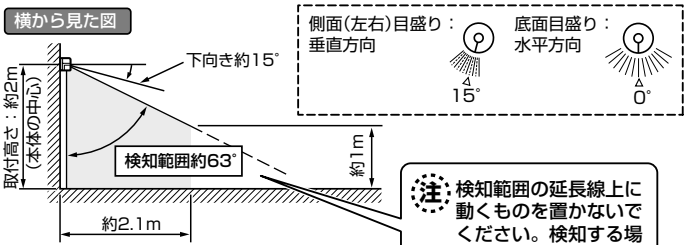




本体から約2mの範囲を検知したい場合

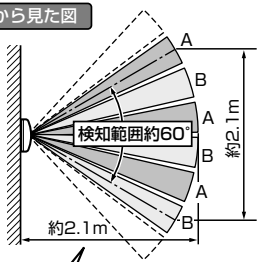
■垂直方向：15˚、水平方向：正面0˚に設定します。

横から見た図



注 検知範囲の延長線上に動くものを置かないでください。検知する場合があります。

上から見た図

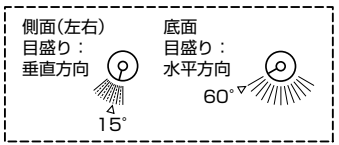


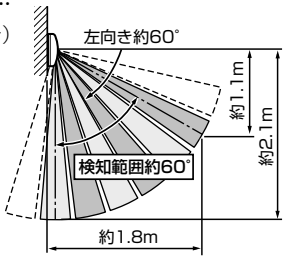
感度切替スイッチ：「標準」側の場合

この場合、A、B二つのエリアを通過したときに検知します。
一つのエリアに入っただけでは検知しません。

例えば、左側だけを検知したいときには…

水平方向だけを左向き約60˚(最大左向き)に調整すると、検知範囲は右記のようになります。



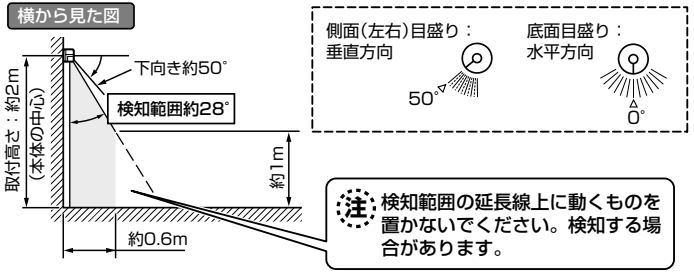


検知範囲について

本体のほぼ真下(約0.6m)の範囲を検知したい場合

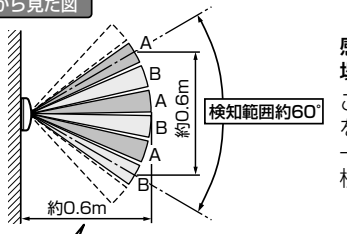
■垂直方向：50°、水平方向：正面0°に設定します。

横から見た図



注 検知範囲の延長線上に動くものを置かないでください。検知する場合があります。

上から見た図

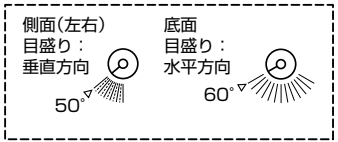


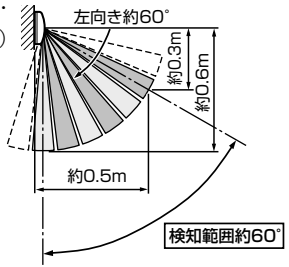
感度切替スイッチ：「標準」側の場合

この場合、A、B二つのエリアを通過したときに検知します。一つのエリアに入っただけでは検知しません。

例えば、左側だけを検知したいときには…

水平方向だけを左向き約60°（最大左向き）に調整すると、検知範囲は右記のようになります。





動作確認

●すべての送信器の登録が完了してから、検知範囲内のどこを通過しても送信器の動作表示灯および受信器が正常に動作することを確認してください。

注 動作確認は必ずカバーを取り付けた状態で行ってください。

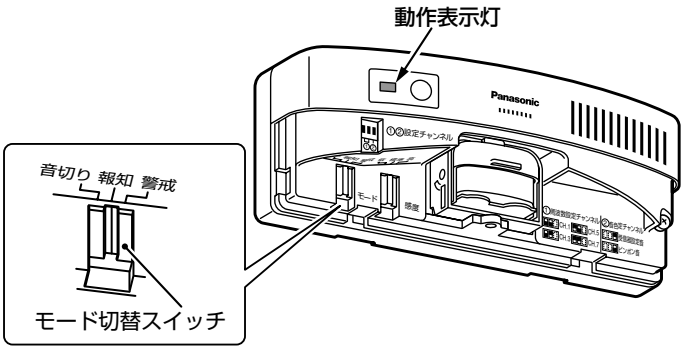
受信モニターの便利な使い方

送信器を操作していないのに、受信器の受信モニターが赤色点灯・点滅する場合は、近くにある家電商品やパソコンなどのOA機器からの電波(ノイズ)を受けているか、もしくはトランシーバーや当社および他社の無線商品など、特定小電力無線設備が使用されている可能性があります。
このような場合には使用場所を変更したり、周波数チャンネルを変更して受信モニターが点灯・点滅しないようにしてください。

使い方

送信器のモード選択

●送信器の使用状態に応じて選択してください。



■警戒モード(出荷時)

●検知すると、動作表示灯が赤色点滅し、約10秒間警報音「ヒュンヒュンヒュン」音が鳴ります。

■報知モード

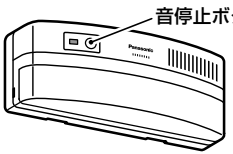
●検知すると、動作表示灯が赤色点滅し、約3秒間報知音「ピッピッピッ」音が鳴ります。

■音切りモード

●検知し電波を送信しますが、送信器から警報音・報知音は鳴りません。

(注)●送信器の警報音や報知音は受信器から止めることはできません。「警戒モード」や「報知モード」に設定した場合、受信器の状態に関係なく、送信器が検知すると送信器本体から音が鳴ります。
●送信器を検知しないようにすることはできません。
●一度検知すると約10秒間は検知しません。

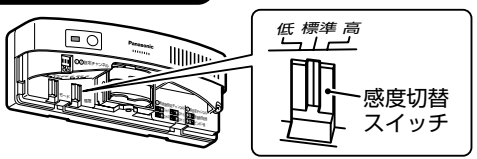
警報音・報知音の止め方



●音停止ボタンを約3秒間押すと「ピッ」音が鳴り、警報音および報知音を止めることができます。
●音停止を解除するには、再度、音停止ボタンを約1秒間押してください。「ピッピッピッ」音が鳴ります。解除しないと検知しても音は鳴りません。

(注)●受信器の報知音を止めることはできません。
●音停止ボタンを押してから約30秒間は検知しません。

感度切替スイッチについて



●感度切替スイッチで検知感度を設定します。

通常は「標準」側(出荷時)で使用してください。

●検知範囲内に洗濯物や植木などがあると動作します。この場合は「低」側にしてください。
●動作しにくい場合のみ「高」側にしてください。

(注)ただし、「高」側にすると動作しやすくなります。(頻繁に動作すると、電池寿命が短くなります。)とくに屋外では、「標準」または「低」側で使用されることをおすすめします。

お願い 毎日、動作確認を行ってください。また送信器・受信器を落としたり強い衝撃を加えた場合は、必ず動作確認をしてください。

❶ 送信器が動作すると

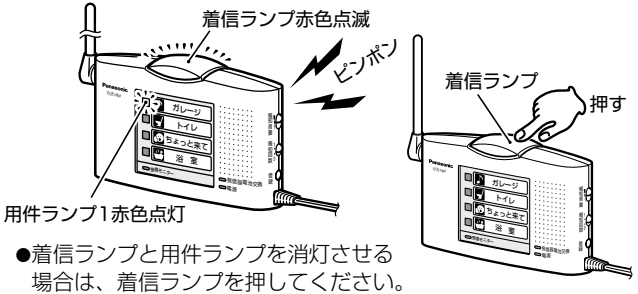
●動作表示灯が赤色点滅し、警報音または報知音が鳴る。

注 ●受信器と送信器の電波の到達距離は障害物のない場所での水平見通し距離約40mです。
●送信器は登録しないと使用できません。（12～15ページ参照）
●送信器から音を鳴らさないようにすることもできます。（23ページ参照）
●一度検知すると、約10秒間は検知しません。

❷ 音と光でお知らせ

●着信ランプが約3分間赤色点滅する。
●送信器を登録している用件ランプが約3分間赤色点灯する。
●登録した報知音が鳴る。

注 報知音量と報知回数は設定できます。「各部のなまえとはたらき」を参照してください。



●着信ランプと用件ランプを消灯させる場合は、着信ランプを押してください。

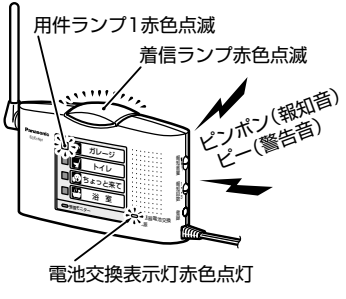
注 押さなくても約3分後に自動的に消灯します。

電池切れが近くなると…

●受信器の電池交換表示灯の赤色点灯と警告音「ピー」音により送信器の電池切れが近いことを知らせます。

注 ●電池が入っていない場合や、完全に電池が切れている場合は表示できません。
●リチウム電池の寿命の目安は1日10回の検知で約1年です。
●送信器には自動送信機能がありますので、送信器を動作させなくても、受信器から電池切れをお知らせします。

❶ 受信器の電池交換表示灯が赤色点灯する



●電池交換表示灯が赤色点灯し、電池切れの送信器が登録されている用件ランプが赤色点滅する。
●報知音の後に警告音「ピー」音が鳴る。

❷ 送信器のリチウム電池を交換する

（12ページを参照してください。）

❸ 電池交換した送信器を動作させると、電池交換表示灯が消灯する

●約3分間、着信ランプは赤色点滅、用件ランプは赤色点灯します。消灯させる場合は着信ランプを押してください。

故障かな？と思われたら

●修理サービスを依頼される前に、次の点検および処置をしてください。
点検を行っても原因がわからないときには、販売店(施工店)またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

状態	点検	処置
登録できない	●電源プラグを差し込んだときに受信器が登録モード（電源表示灯：緑色点滅／用件ランプ：赤色点滅)になりますか？	➡送信器が1台でも登録されていると、電源表示灯は緑色点灯します。この場合は受信器の登録ボタンを約1秒間押すと**登録モード**になります。
送信器を動作させても受信器が動作しないまたはときどき動作しない	●送信器の電池が正しく入っていますか？	➡極性を確認して正しく電池を入れてください。
	●古い電池を使っていませんか？	➡新しい電池と交換してください。(リチウム電池品番：CR123A)
	●受信器と送信器の周波数チャンネルは同じですか？	➡受信器と使用している送信器すべての周波数チャンネルを同じ周波数チャンネルに設定してください。(11ページ参照)
	●送信器は登録されていますか？	➡送信器を登録してください。(12～15ページ参照)
	●受信器と送信器の間に金属や鉄筋コンクリートなどの電波を通しにくい障壁がありませんか？	➡電波の通しにくい障壁を避けて、動作する場所で使用してください。
	●受信器と送信器の近くに、ファクシミリやパソコンなど電波（ノイズ)を出している家電商品やOA機器がありませんか？（※）	➡電波(ノイズ)を出している家電商品やOA機器の近くを避けて、動作する場所で使用してください。
	●受信器と送信器の距離が離れすぎていませんか？	➡受信器と送信器の距離を近づけ、動作する位置で使用してください。
	●送信器の近くで携帯電話やPHS電話を使用していませんか？	➡携帯電話やPHS電話を終了させてから、送信器を動作させてください。
	●送信器の近くにAC100V機器またはAC100V電源線が配置されていませんか？	➡AC100V機器、AC100V電源線の近くを避けて、動作する場所で使用してください。
	●検知範囲内で止まったり、遅い動きや走るような速さで通過していませんか？	➡人の動きなどの温度変化を検出していません。大きく動いたり、検知速度を確認してください。
	●気温が体温に近くなっていませんか？	➡故障ではありません。夏場など気温が体温に近づいたときには、検知しにくくなります。
	●検知範囲に障害物はありませんか？	➡障害物を取り除いてください。
	●検知窓がホコリや水滴で汚れていませんか？	➡やわらかい乾いた布でふき取ってください。(ベンジンなどは引火性があるため使用しないでください。)
	●検知範囲の調整は適当ですか？	➡人が検知範囲内のどこを通過しても検知するように検知範囲を再調整してください。(18~21ページ)
	●検知後、10秒以内に検知させようとしていませんか？	➡一度検知すると約10秒間は検知しません。
	●音停止操作の解除後、30秒以内に検知させようとしていませんか？	➡音停止操作を解除してから約30秒間は検知しません。
頻繁に動作するまたは動作し続ける	●検知範囲内で何か動くものがあったり、急激な温度変化が起こっていませんか？	➡原因となるものを取り除いてください。(6～9ページ参照)
	●雨戸や窓などを開閉していませんか？	➡故障ではありません。窓の開閉時に部屋の空気が流れ出しその温度差により動作することがあります。
	●検知範囲内で洗濯物やゆれているカーテンなどがありませんか？	➡洗濯物の干し場所を変更したり、カーテンが窓の外へ出るのを防ぐためアミ戸を閉めてください。または感度切替スイッチを「低」側に切り替えてください。
	●太陽光の強い反射、ヘッドライトなどの光が当たっていませんか？	➡電池寿命が短くなる原因となりますので、設置場所を変更してください。
	●本体の近くで携帯電話を使用していませんか？	➡携帯電話は本体から離れて使用してください。
	●検知範囲外を通っている人などを検知していませんか？	➡検知範囲を再調整してください。5m以上でも検知する場合があります。(18~21ページ)

(※)何も操作していないのに、受信器の受信モニターが赤色点灯･点滅している場合は受信器や送信器のまわりにある家電商品やOA機器からの電波(ノイズ)の影響を受けています。

仕　様

■小電力型ワイヤレスコール熱線センサー送信器(屋側用)（ブラウン)(ECE1821AP)/(ベージュ)(ECE1821FP)

屋側用

電　　源	リチウム電池(CR123A)×1コ
定格電圧	DC3V
消費電流	動作時　50mA以下　　待機時　50μA以下
使用周波数	CH.1(426.0250)MHz CH.3(426.0500)MHz CH.5(426.0750)MHz CH.7(426.1000)MHz } の1波　※周波数設定スイッチで選択
電波の到達距離	障害物のない場所での水平見通し距離約40m (周囲環境により異なります。)
音量(前方1m)	警戒モード：約85dB　　報知モード：約65dB
音　　色	警戒モード(警報音)：「ヒュンヒュンヒュン」音(約10秒間鳴動) 報知モード(報知音)：「ピッピッピッ」音(約3秒間鳴動)
送信出力	1mW $^{+20\%}_{-50\%}$
検知距離	最大5m
検知速度	0.3m/秒～1.5m/秒
検知エリア可変範囲	上下：約50°　左右：約60° (上下約5°、左右約10°きざみで調整可能)
電池寿命	約1年(10回／1日)
使用温度範囲	−10℃～+50℃ (注) **−10°以下では動作しないことがあります。**
寸　　法	高さ：約62mm　幅：約170mm　奥行：約52mm
質　　量	約220g（電池も含みます。）

MEMO

便　利　メ　モ　（おぼえのため、記入されると便利です。）

お買い上げ日	年　月　日	品　番	
販　売　店　名	電話（　　）　　ー		
お客様ご相談窓口	電話（　　）　　ー		

パナソニック電工株式会社
製造元 パナソニック電工株式会社 HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008
8A2 903 00004　M0303-30708A